

日常会話で「視野に入れる」とか「視野が開ける」などと言いますが、眼科での視野とは「点を凝視したときの見える範囲」のことです。

網膜から脳までの視覚の伝導路を視路といいます。そのどこかに異常があると視野が障害されます。網膜の病気、視神経の病気、脳の病気などによって起こるわけですが、原因となる病気によって視野障害に特徴があります。①片眼か、両眼か②見づらいのは視野の中心部か、周辺部か③急激に起つたのか、徐々に起つたのか——などをにより、どんな病気かをかなり予想することができます。

視野が周辺部から中心に向かつて障害されるのが、生じた障害は治療開始が大切です。発見には人間ドックなどの健康診断が有効です。視野の中心部が見えなくなり、視力も低下する中心暗点は、視神經炎が多く見られます。網膜

網膜や視神経に異常 脳の病気が潜む場合も

の中心部分（黄斑部）に病変がある場合にも起ります。

眼の病気だけでなく、脳の病気でも視野障害が生じることがあります。両眼ともに耳側が見づらくなるものも同側（右側ないしは左側）が見づらくなりますが、両耳側半盲、両眼ともに耳側が見づらくなるものも同名半盲と呼び、脳腫瘍や脳動脈瘤、脳梗塞などが原因として考えられます。急速な視野障害が見られる病気は、網膜剥離や眼底出血、視神経の病気などが考えられ、緊急の処置を要することが多いのですが、徐々に起つた場合でも眼科を受診して、適切な検査や治療を受けることが大切です。

宮久保 純子 先生 プロフィール

昭和53年群馬大医学部卒業、同大附属病院眼科、前橋赤十字病院眼科、前橋協立病院眼科勤務、平成5年宮久保眼科開業■専門分野／涙疾患、眼瞼疾患、白内障、小児、日本眼科学会認定眼科専門医、日本眼科手術学会員



目の健康